

## 感染症発生動向調査

## 秋田県における感染症発生動向（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、RSウイルス感染症）について

藤谷陽子 齊藤志保子 伊藤佑歩 今野貴之 秋野和華子 斎藤博之

## 1. はじめに

秋田県感染症情報センターでは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）に基づく感染症発生動向調査の一環として、感染症の流行状況の把握を目的に、県内の患者発生状況と病原体検出の両面から情報の収集・解析・発信を行っている。

2019年12月に中華人民共和国湖北省武漢市において原因不明の肺炎患者が多発し、2020年1月に新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）による感染症であることが確認された。この新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2020年2月1日に感染症法における指定感染症に定められ<sup>1)</sup>、全数把握対象疾患として、診断した医師に保健所への発生届の提出が義務づけられた（2021年2月13日からは新型インフルエンザ等感染症に分類<sup>2)</sup>）。

今回、県内9保健所管内（秋田市保健所含む）のCOVID-19患者報告数と、他の呼吸器系感染症としてインフルエンザ及びRSウイルス感染症のCOVID-19発生後の定点あたり患者数について考察したので報告する。

## 2. 対象

## 2.1 COVID-19 患者報告数

2020年第10週（2020年3月2日～3月8日）から2021年第12週（2021年3月22日～3月

28日）に、SARS-CoV-2感染が判明し、秋田県及び秋田市ホームページにて公表された感染者283人を、秋田市保健所と県保健所（県保健所8保健所の合計）ごとに、週別に集計した。

## 2.2 定点把握対象疾患

定点把握対象疾患のインフルエンザ及びRSウイルス感染症は、週毎に集計される定点あたり患者数<sup>\*</sup>を指標とした。インフルエンザは2018/2019～2020/2021の3シーズン（2021年は第12週まで）について、RSウイルス感染症は2014年から2021年第12週までの発生状況を比較した。

<sup>\*</sup>定点あたり患者数：人口に応じてあらかじめ指定されたインフルエンザ定点及び小児科定点医療機関より1週間ごとの患者数が保健所に報告される。報告された患者数を定点医療機関数で割った数、定点あたり患者数（1医療機関あたりの平均患者数）となる。

## 3. 結果と考察

## 3.1 COVID-19 患者報告数

秋田県と全国のCOVID-19患者報告数を図1に示す。2020年第10週～2021年第12週までに報告された283人の内訳は、秋田市保健所管内126人（44.5%）、県保健所管内157人（55.5%）であった。

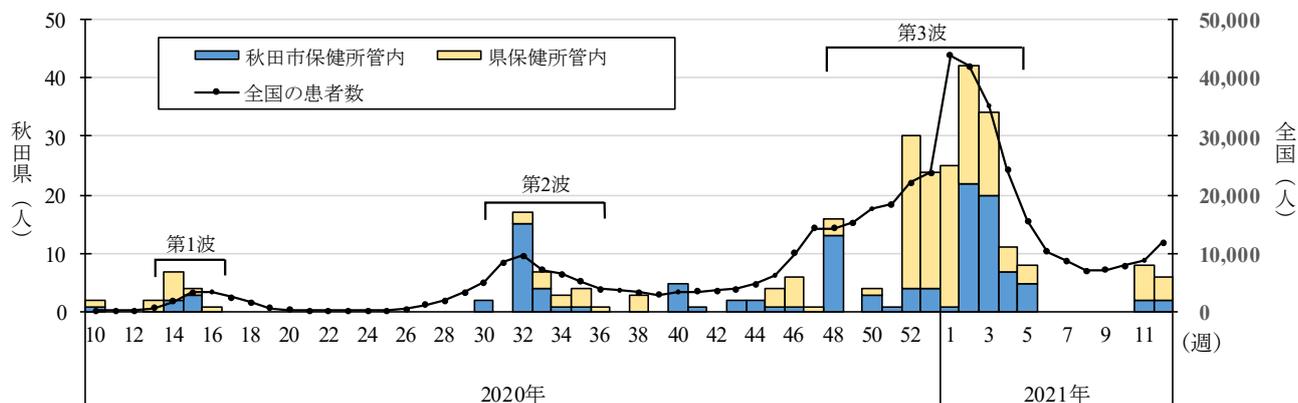


図1 秋田県と全国のSARS-CoV-2患者報告数の推移（2020年第10週～2021年第12週）

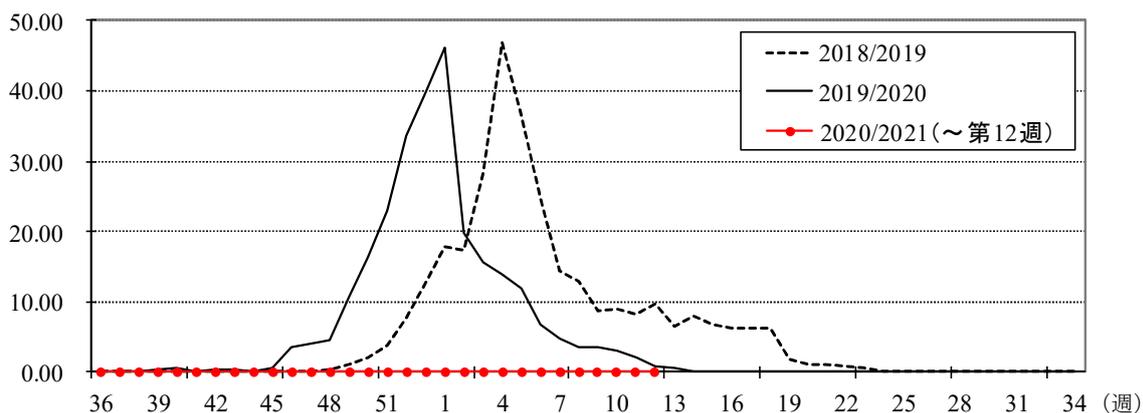


図2 インフルエンザの定点あたり患者数

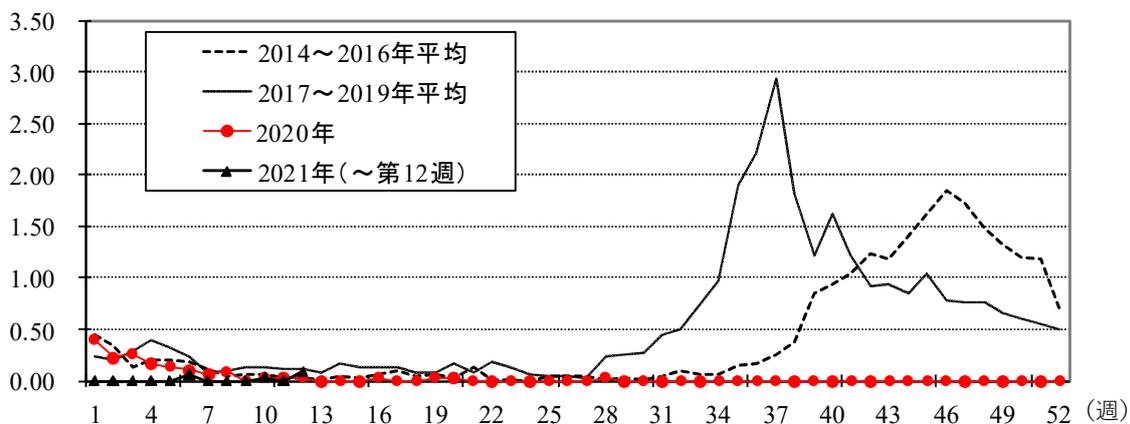


図3 RSウイルス感染症の定点あたり患者数

2020年第13週(3月23日~3月29日)から第16週(4月13日~4月19日)のいわゆる第1波では、県外との往来があった方やその濃厚接触者が患者として多く報告された。第30週(7月20日~7月26日)から第36週(8月31日~9月6日)の第2波には、実業団で県内初のクラスターが発生した。第48週(11月23日~11月29日)から2021年第5週(2月1日~2月7日)の第3波では、繁華街と医療機関でのクラスターが発生した。秋田県の患者の絶対数は他県と比較して少なかったが、患者数の推移は全国とほぼ同一の動向を示した。

年代別の患者報告数は、20歳未満が30人(10.6%)、20~30代が89人(31.4%)、40~50代が68人(24.0%)、60~70代が62人(21.9%)、80代以上が27人(9.5%)、非公表が7人(2.5%)であった。20~30代が約3割を占めているが、学生の帰省や会社員等の出張による県境を越えた移動で感染する機会があったこと、実業団や繁華街でのクラスターの発生等が、この年代の感染者が多くなった要因

と推測される。

### 3.2 定点把握対象疾患

インフルエンザは、例年12~3月に流行のピークがみられる。県内でCOVID-19患者が初めて確認された2020年第10週の定点あたり患者数は3.17であり、県内はインフルエンザの流行中であったが、その後、第12週に例年よりも8週ほど早く終息した(図2)。2020/2021シーズンには流行が全くみられず、シーズンを通して患者報告は秋田市保健所管内と北秋田保健所管内からの2人のみであった。2009年に発生した新型インフルエンザ流行時にはピーク(53.55)が第44週(10月26日~11月1日)と冬季からずれたことはあったが、ピークがみられなかったシーズンは1981年に全国的な感染症発生動向調査が開始以されて以降初めてとなった。

RSウイルス感染症については、2016年以前は11月頃(第46週付近)に、2017年以降は9月頃(第37週付近)にピークがみられていたが、2020年はインフルエンザと同様に流行がみられ

なかった（図3）。

インフルエンザ及びRSウイルス感染症の2疾患は、COVID-19が県内で確認された2020年第10週から2021年第12週までの期間ではその発生が例年より顕著に抑えられていた。COVID-19の発生により、マスクの着用や手洗いなどの感染防止策が徹底されたことが、COVID-19以外の他の感染症の発生動向にも影響したと考えられる。しかしながら、その後、変異株の出現等の影響もあり、COVID-19の流行はさらに拡大している一方で、経済活動の両立や自粛疲れ等の影響もあってか人々の活動は活発化してきている。RSウイルス感染症については、2021年第13週以降に患者報告数は増加傾向を示し、昨年とは異なる動向もみられている。今後も患者情報の推移を注視し、週報等の公表を通じて、県内の感染症の予防啓発に努めていきたい。

#### 4. まとめ

COVID-19患者は、2020年第10週から2021年第12週に283人の報告があった。新型コロナウイルス感染症の流行により、呼吸器系感染症であるインフルエンザ及びRSウイルス感染症の発生動向の推移が従来の傾向と異なった。今後も感染症の発生動向について、関係する医療機関や保健所等の協力を得ながら情報の収集・解析・発信に努めていく。

#### 参考文献

- 1) 新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令等の施行について、令和2年1月28日、健発0128第5号。
- 2) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の改正について（新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律関係）、令和3年2月3日、健発0203第2号。